

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2694000254		
法人名	社会福祉法人 三頂福祉会		
事業所名	グループホーム洛西(1)		
所在地	京都市西京区大枝東長町1-610		
自己評価作成日	令和2年3月13日	評価結果市町村受理日	令和2年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2694000254-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2694000254-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年7月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

理念にあります、「その人らしく」「今までの生活の延長で」を尊重して、今までの暮らしと変わらないように、施設で過ごして頂く事を心掛けています。出来る事はご自身で、自立を促し、残存機能の低下の防止、維持向上に努めています。一人一人に寄り添い、安全、安心して暮らせるように入居者の気持ちを考えております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは「その人らしく、今までの生活の延長で」と理念に謳い、利用者の今までの生活スタイルを大切に、起床時間や食事時間など自由にしてもらい、利用者は日々居心地よく過ごしています。職員のチームワークは良好で会議や申し送り時の他、日々の業務の中でも活発に意見を出し合い連携良く協力しながら様々なことに取り組んでいます。少しでも食の楽しみを持ってもらおうと広いベランダを活用し年に数回焼きそばパーティーをしたり、お好み焼きを作ったりロールサンドイッチなどのおやつ作りにも挑戦しています。また、観梅や桜の花見、ひまわり、コスモス等季節毎の外出の他にも歌をうたったり、カルタ取りや運動会、ベランダで花火をするなど多くのレクリエーションを取り入れ利用者の楽しみごとが増えるよう取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初入社日にオリエンテーションを行い、法人理念を説明を行い、情報共有を行っている。理念の考えを現場の事例をあげ説明を行う。	法人理念の基介護者の理念、ケアの理念等を掲げ、その人らしく起床時間や食事時間等今までの生活の延長を意識した支援に心がけています。理念は会議室等に掲示し、新任入職時には理念を記載した資料を配布すると共に説明し、ケア会議等で話し合うなど職員への意識づけを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域住民の催し物の情報を聞き、出来る限りの参加を入居者とするようにしている。	今年度は法人の取り組みとして中学生の職場体験の受け入れや支援学校と野菜作りを通してふれあう機会を予定していましたが新型コロナウイルスの流行により今回は中止となりました。併設の施設に尺八やアコーディオン演奏等のボランティアの来訪があり一緒に楽しむなど少しずつ地域との関わりが持てるよう取り組んでいます。運営推進会議で夏祭りや地藏盆等地域の情報を得ていますが、参加できていないのが現状です。	運営推進会議では地域役員の方の参加を得て多くの地域情報を得られていますので、地域行事にできるだけ参加できるよう工夫したり、日々の暮らしの中に近隣への散歩を取り入れるなど、地域との交流を深めていかれてはいいかがでしょうか
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へのアピールは行えず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様の要望を聞き、施設運営を行えるように検討を行った。出来る事から行うように努力はしている。	会議は併設の施設と合同で自治会長や民生委員、家族、地域包括支援センター職員等の参加を得て通常は2か月に1回開催しています。利用者の状況、事故報告や対策、食事メニュー等について報告し意見交換を行っています。地域活動の情報を得る等有意義な会議となっており今後は参加することも視野に入て考えていく予定です。全家族に案内し報告は欠席の家族に送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を提出。市町村への連絡などは特に行っておらず。	運営推進会議の議事録や事故報告、書類の手続き等で窓口を訪れたり、必要事項や注意喚起の連絡もあり職員に周知しています。マスクや消毒液が届いたり、市から連絡のある認知症等の研修に参加することもあり関わりが持てるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年2回実施を行う事としている。研修へ参加出来ない職員へ資料を配布している。初入社日のオリエンテーション時に資料を配布して身体拘束のあり方の情報共有を行っている。	年2回身体拘束についての研修を行い、欠席者には資料を基に伝達し、身体拘束適正委員会は施設全体で毎月行い職員が参加しています。家族の了承を得て安全な見守りのためセンサーマットを使用している利用者もおり、介護計画のモニタリング時に必要性等について話し合い外した利用者もいます。不適切な対応が見られた場合は都度注意し、外に出たい時はユニット間を行き来したりペランダに出て気分転換を図っています。	

グループホーム洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行う事としている。研修へ参加出来ない職員へ資料の配布をしている。初入社日のオリエンテーション時に資料を配布して虐待防止のあり方の情報共有を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人のおられる入居者がいるが、学ぶ機会を設けることは出来なかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結日、解約日には、契約書、重説などで説明を行い、随時質問へは対応を行っている。納得を頂き、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に、施設の取り組みや、今後の予定の報告を行っている。会議時に要望を聞き、施設運営への反映を行っている。	家族には面会時以外にも月1回広報誌を送付し、コロナウイルスにより面会できない時は写真の他、職員や本人の直筆での手紙を同封し利用者の日々の様子を伝えており、意見や要望については年1回のアンケート調査や運営推進会議、面会時に聴くようにしています。居室の臭気については消臭剤を置いたり換気を細目に行うなど対策を講じ、アンケート調査の結果報告の中で伝えていきます。利用者からの要望についても日々の暮らしの中で反映するようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア長会議、フロア会議を実施して、現場の意見を聴く機会を設けている。管理者会議で意見をまとめ早期解決に努めている。	職員からの意見や提案は月1回のフロア会議やフロア長会議、申し送り時に聴くようにしています。日頃から活発に意見が出ており服薬や食事、排泄等について話し合い、排泄時の随時の声かけや食事量が少ない利用者栄養補助食品を提供するなど速やかに実施できるよう職員間で検討しています。年2回の個別面談時やアンケート調査の中で意見を聴くこともあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を行っている。出来ている部分、出来ていない部分の確認を行い、改善する部分については指導を行うようになっている。職場環境・条件の設備は、その都度意見が出てきた時に、検討を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修を行い、知識の向上、業務の中でのトレーニングを行っている。外部研修への参加も行っている。		

グループホーム洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加を促し、他の施設職員との交流を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談、入居後は、こまめな声掛けと様子観察、24時間シートの活用		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談、契約時に施設の説明、計画書の説明、面会時に様子を伝え、ヒアリングを行う		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の計画書の確認を行う。ご本人・家族の意見を確認する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築くように努力はしているが、具体的な事はおこなっておらず		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築くように努力はしているが、具体的な事はおこなっておらず		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、自由に行っている。個人情報にもなる為、御家族へ確認を行ってから、面会を行って頂いている	友人や近所に住んでいた知人等の来訪時には居室やリビングなど希望される場所へ案内し、椅子の準備やお茶などを用意しゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮しています。家族と自宅に帰ったり、馴染みの場所等へ出かける際は身支度等の事前準備を支援しています。知人から年賀状や手紙が届くこともあり、家族に渡してから本人に読んでもらっています。	

グループホーム洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを取れない利用者へは、職員が声掛けを行い、交流を行うようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後は、特に連絡は行っていない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人へ確認を行っているが、家族様本位になっている所がある。	入居前に自宅や施設、病院等本人が暮らしている場所へ出向き、本人や家族の意向、ホームでの望む生活、生活歴、嗜好等を聞いたり、病院やケアマネジャー等からの情報をまとめアセスメントシートに記載し意向の把握に努めています。入居後は職員の関わる中で気づいたことを個人記録に記載したり1時間毎の生活内容を記録し、知り得た情報等についてケア会議で話し合い思いの把握に繋げ職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に今までの暮らしを確認し、今までの生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面談時に今までの暮らしを確認し、今までの生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居宅サービス計画書、本人、家族の意向を確認して計画書を作成、同意を得ている	その人らしく今までの生活ができるよう、本人や家族の意向を聞いたりアセスメントで知り得た情報を基に介護計画を作成しています。3ヶ月毎に計画の状況確認のためモニタリングを行い、6ヶ月毎に再アセスメント、本人や家族、看護師の参加を得て必要に応じて医師の意見ももらいサービス担当者会議を開き見直しを行っています。	特に大きな変化がない場合は家族も参加してサービス担当者会議を開催し計画を継続していますが、都度同意を得るよう取り組みられることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング、個別の記録を作成して、個別の計画書を作成をしている。		

グループホーム 洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、御家族の意見を聞きながら、出来る範囲で対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との交流はない。運営推進会議などで聞き取りは行っているが、日程が合わず参加ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の指定の往診医へ診てもらっている。以前からのかかりつけ医がご希望の方は、かかりつけ医に診てもらっている。	入居時にかかりつけ医を選んでもらい全利用者がホームの協力医に変更しています。週1回の往診があり24時間連絡可能となっており体調が悪くなった場合は直接医師に電話をし指示を仰ぎ受診することもあります。専門医への受診は家族対応が基本となっておりますが必要に応じて職員が対応することもあります。週1回歯科の訪問があり、必要な方や希望に応じて受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に1日、1～2名の看護職員が日勤帯で勤務をしている。異常がある時は、看護職員へ相談を行い、確認をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカー、家族と連絡を取り、情報交換を行っている。入院時は、施設の看護サマリーを渡すようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化、看取りについての説明を行っている。看取りについては、御家族の希望を聞く事としている。	入居時に看取り指針をもとにホームで支援できること、できないことについて説明しアンケートをとり意向の確認をしています。重度化し看取り支援の段階に入った場合は医師の判断により医師や家族、職員で話し合いを重ね方針を決めていく予定です。看取り支援についての研修は年1回行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行い、フローチャートに基づき行動するようにしている		

グループホーム洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。内部研修を行い、マニュアルの確認を行っている。地域との協力体制は築けていない。	災害マニュアルと火災マニュアルを作成しており、年2回併設施設と合同で昼夜を想定し避難訓練を行い、内1回は消防署の立ち合いの下昼間想定で通報、初期消火、利用者全員参加し避難誘導の訓練を行っています。運営推進会議で内容を報告し地域には案内のみ行っています。自家発電機や懐中電灯、ヘルメット等を準備しており、非常食は3日分備蓄しています。	地域への避難訓練の案内の継続や参加依頼等の他、地域の防災訓練等にも参加し地域との協力体制を築いていくことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けをを心掛けている。	併設施設と合同でプライバシー保護や認知症ケア等についての研修を行い職員は人格や尊厳を大切にケアについて理解を深めています。日頃から言葉遣いに留意し敬語を基本としており、呼称についても苗字で呼び、声の大きさにも配慮しています。不適切な対応があった場合は研修や会議で注意をしています。希望があれば同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を尊重しながら、ご自身の希望を聞くように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望し添いながら、声掛けや、見守りを行っている。ご本人のペースへ出来るだけ合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中は、ご自身で選べる入居者はご自身で着替えが出来るように支援をしている。夜間は、全員パジャマに着替えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で3食食事を作っている。おやつづくり等は行うが、食事作りは行っていない。	食事は管理栄養士が行事食や旬の物を取り入れ立てた献立のもと施設の厨房で作り盛り付けしたものが届き、配膳のみホームで行い職員と一緒に食事を摂っています。年数回はお好み焼きを作ったり焼きそばパーティーの開催、ロールサンド等の手作りおやつその他、利用者の目の前で厨房職員によるプリの解体を行い造りにして食べてもらう等食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望時や、決まった時間に水分の提供を行っている。希望者には、居室で飲めるように準備を行っている。		

グループホーム洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後には、全員口腔ケアを行うようにしている。昼食後は、希望者のみ対応を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意がある入居者は、要望時トイレ誘導を行っている。定時の声掛け、誘導を行う。Pトイレを使用していた場合は、施設でも準備使用してもらうようにしている。	日中はトイレでの排泄を基本としており、排泄表によりパターンを把握し、定時の声かけの他、様子を観ながら声かけや誘導を行っています。退院後についても元の状態に戻るよう支援し、個々に合わせた排泄用品や支援方法についても話し合い自立に向けた支援に取り組んでいます。業者の行う研修会に参加することもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などで体を動かすようにしている。水分補給の促しも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、職員が決めた時間に対応を行っている。	入浴は土、日曜日以外の日中に支援しており、一人ずつ湯の入れ替えをし衛生面に配慮し、個々のペースでゆっくりと会話を楽しみながら入ってもらっています。保湿クリームや化粧水等を持参している方もいます。拒否のある場合は日時を変更したり、声かけする職員を代えるなど工夫をし無理のない入浴に繋げています。重度化した場合は併設施設の車いす用の特殊浴槽を使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の状態に合わせて対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用などの把握までは出来ていない。薬は、職員が管理を行い、決められた時間に服用して頂くように支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はご自身で行って頂くように声掛けなどを行っている。昔の趣味などを聞き、出来る事があれば、参加への促しを行っている。		



グループホーム 洛西(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族との外出、職員との散歩などは行っているが、地域の人々との連携はとれていない。	桜の花見やコスモス、ひまわり、もみじ見学など季節ごとの外出を楽しんでいましたが、新型コロナウイルスの流行により外出の機会が減り、広いペランダでできることを企画し外気浴をしながら過ごす機会を多く持つようしています。花火の他、焼きそばパーティーやお好み焼きなどの食事、お茶やおやつを食べながら外気にふれ気分転換を図っています。家族の協力を得て外食や自宅に帰ったり、旅行に出かける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で使用する事はない、御家族様へ管理は依頼をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの要望時は、ご本人と電話が出来るように支援をしている。手紙は、御家族へ連絡後に本人へ渡すなどの対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に心掛けている。	共有空間は広々としており、家族から届いた生花を活けたり、利用者と一緒に正月飾りや七夕、クリスマス等季節行事に合わせて作ったり、飾りつけをして季節を感じてもらっています。職員が丁寧に掃除し換気は頻繁に行い、温湿度についても空調や加湿器の設置、利用者の体感により調整し、ソファを置きゆったりと快適に過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が、入居者の性格を確認をしたうえで、席の配置を検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人、御家族の希望に合わせて、持ち込み家具の制限は行っていない。	居室にはベッドやタンスが設置されており、テレビやラジオ、いす、タンスなどを持参してもらい本人や家族と相談しながら配置しています。絵画等自身の作品を飾ったり、本や計算ドリル、アルバム、家族の写真等も傍に置きその人らしく過ごせる居室となっています。習慣や希望により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は、ご自身で行って頂けるように環境作りに努めている。		